

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	矢野 花織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期の「日本語教育方法論演習Ⅰ」に引き続き科目であったため、教師・学生で共通認識として持ち得た既習の知識・スキルを応用・発展させていくように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>日本語教師としての知識・スキルを実際に模擬授業を通して運用することができること、また振り返りを通して不足している知識やスキルを自覚し修正していくことを本講義の中心として進めてきたが、学生による「到達度自己評価」においても「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という回答が「4.8点」と非常に高く、上記の目標を学生自身が達成できた実感できていたことが分かる。</p> <p>また、授業の質評価に関しては、すべての項目において中央値が「5.0点」となっており、授業の質が学生の目標達成に沿ったものであったと考える。</p>					
*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義の受講動機としては「資格取得に必要である」ことが最多であり、当初すべての学生が意欲的であったわけではないかもしれないが、模擬授業を含む演習に対する姿勢は非常に前向きで、どの学生も反省点や課題を次の演習では様々な準備や工夫をしながら、次年度の教育実習につながる力を着実につけることができていた。このことから、本科目が単位取得のみならず学生の興味関心を引き出す効果も持ち、内容的妥当性が高かったと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講人数が少ないため、毎回の授業における学生の理解度や興味関心も確認しながら、必要に応じて個別にフィードバックや学生の意見を聞く機会も設けた。次年度以降も、全体での活動に加えて、ひとりひとりの目標達成を大切にしながら授業を進めていくという授業デザイン・運営を引き続き進めていきたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケートから、本授業の内容および進め方は学生のニーズとマッチできていたと考えられる。少人数だったため、グループワークや発表に変化をつけることが難しかったが、個々の強みと弱みをていねいに見ながら接することができた。次年度も、1年生に学んだ基本的なことをふりかえりつつ、実践につなげていくという演習スタイルを継続し、また、さらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育実習	3	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is the capstone course for the Japanese language teaching course, in which students put to use what they have learned over the last two years within a teaching practicum. I aimed to give them opportunities to experience a variety of different teaching contexts, and was able to provide three teaching situations: online teaching with an individual adult learner with English able to be used as a language of instruction, online exchange with students studying Japanese in the USA, and teaching within a fixed curriculum at a Japanese language school with Japanese as the language of instruction. My approach to the course was to encourage the students' autonomy and independence, creating an environment where they could make decisions on their teaching themselves, and creating an atmosphere where they were required to reflect on both their and their peers' performances, and to freely share their feedback with each other. After creating space for them to reflect on their own performance, I provided detailed feedback and was always sure to confirm how students revised their materials and teaching based on their own reflections and peer and teacher feedback, and to follow up on this as appropriate.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students taking the course performed at an extremely high level. As both individuals and as teaching teams, they showed that they were able to adequately prepare for their practicums making use of their knowledge of the field, reflect on their own and their peers' performances and provide appropriate feedback, and to make use of their own self-reflections and feedback to improve their teaching practices. This was evident in their performance during their actual teaching practicums, in the post-practicum feedback sessions, in preparation sessions, and in their final reflection reports. All students were able to take initiative in decision making, but were also able to cooperate with their peers and be flexible.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Overall, I felt that the course was delivered smoothly and that the key course aims were achieved. This was greatly due to the positive attitude of the students taking the course, and the extremely high level of cooperation and team work between them. I felt that the students were able to develop various generic skills which will be useful for them regardless of their future career choices. At times I felt that they lacked enough knowledge of teaching methodology, and in hindsight it may have been better to have focussed on fundamental points a bit more in the first semester. Also, due to the circumstances of the Japanese language school where we did the practicum, the students had limited time within which to prepare for their practicums. In addition, they were not familiar enough with the textbook used at the school, and thus the teaching points and the students' preexisting knowledge. I feel that I need to allow for more time to conduct textbook analysis before entering the second semester.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I feel that the key course aims were achieved. In the next undertaking of this course I will need to consider how to incorporate chances to deepen the students' understanding of teaching methodology and time to conduct textbook analysis, after consideration of the students' needs.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、イエス・キリストの生涯を中心に新約聖書の概要を学び、キリスト教が世界の文化に与えた影響を学ぶことを目的としている。後半では、グループごとに関心のあるキリスト教に関するテーマのResearchを行い、プレゼンテーションを行う協働学習を行なった。また、最後には1年間の学びのまとめとして建学の精神である「感恩奉仕」について個人が考察した。毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形で学生が参加できるよう学びの形態を工夫した。</p> <p>②毎回授業の最後に記入するクラスポートフォリオ、毎回のチャペルの感想回収、教会訪問レポートにより、キリスト教の学びの全体像を把握した。</p> <p>③学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、一年間のキリスト教の学びの振り返りを行う作業をした。学びの振り返りと共に、西南女学院生としてのアイデンティティの形成、意識が高まった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(4.0)、知識理解に関しては(4.4)であった。到達度の自己評価の平均値は(4.2)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの視聴率約80%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えます。</p> <p>また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言えます。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価についての平均値は(4.3)であった。説明が理解しやすいものであった(4.4)は、学生との双方向のコミュニケーションを工夫したことによると言えよう。
本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」が(4.3)、「学生の意見を受け付け、それに答える機会が作られていた」は(4.3)であったが、2年次以降も建学の精神の土台となる聖書に日常的に親しむことができるよう、授業以外でも自ら聖書を開けるような促しをしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

建学の精神の土台を学ぶための必修科目の位置づけであり、本学の要となる科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、通常では、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。学生が意欲的に協働学習に取り組むことができたことに感謝したい。引き続き、学生の興味関心を引き出し、聖書を身近なものとして日常的に読むよう促していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探究し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。初年次セミナーIで使用したテキストの後半を使用した。また副教材書き込みテキストの後半も使用させ、自習教材として完成させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の到達度自己評価を見てみると、平均値が、(1)3.6(2)3.8(3)3.6(4)3.5(5)3.6(6)3.5(7)3.7(8)4.1(9)3.9(10)3.5であった。昨年は、(1)4.5(2)4.7(3)4.4(4)4.5(5)4.4(6)4.4(7)4.5(8)4.4(9)4.5(10)4.4であり、2年前は、(1)4.0(2)4.3(3)4.1(4)4.1(5)4.2(6)4.1(7)4.1(8)4.3(9)4.2(10)4.2であったので大幅に評価が下がった。昨年とほぼ同様の指導をしたのでアンケートの数値が下がった理由はあまりわからないが、成績とアンケートにおける満足度を総合的に判断して、全体として「やや達成された」と評した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。フィードバックの自由記述欄では、昨年は、前期の個人プレゼンとは違い、グループでプレゼンを行ったことでの難しさや学びに関するコメントが15つ挙げられ、グループでするプレゼンをきっかけに、グループワークや協働の大切さを学生が体験したことがうかがえた。後期は、前期の個人ではなくグループによるプレゼンを評したので、多くの学生が、グループメンバーとの協力の大変さ、重要性、達成感をアンケートの自由記述欄にコメントしていた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年もプレゼンを、引き続きクラスルームをたくさん利用して、そこにレポートやレジュメ、さらには各グループプレゼンのフィードバックのフォームを利用することで、充実の内容となった。また初めての試みとして、グループでのプレゼンを動画にしてクラスルームに投稿するということをミッションと課した。そこでアンケートの自由記述欄には、zoomをうまく使えるようになったというコメントが沢山上がった。他には、外部講師を招いた週がとても印象に残った、という意見があった。大人の方のプレゼンの方法を見て学ぶことはたくさんあるし、来年も機会があれば積極的に外部の講師を招致したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前期には個人対面式で、後期にはグループで動画投稿でプレゼンを行ったことで、学生にとってバランスある学びになった。教材や副教材は今の所適切であると思うが、特に書き込み式の副教材については明確な指示をクラスルームに出し、今年も混乱を避けることができた。しかしながら書き込んだ内容を、授業の中でもっと学生同士の共同作業を促す工夫にまだ改善の余地があると思うことが来年度の課題である。また、プレゼンテーションの正当な評価が課題である。ほとんどのプレゼンテーションが優劣がつけにくく、プレゼンテーションの成績の明確なルーブリックの開発を必要とする。更にグループでの動画作成、投稿にあたり、非協力的なメンバーに他のメンバーが苦勞する場面が目立った。そこでグループ活動におけるマナーのマニュアルを頻発したトラブルを念頭に作成したので、来年は事前に指導を徹底したい。トラブルとしては、メンバー内で連絡がスムーズに取れないという根本的な所謂「ハウレンソウ」問題が多かった。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握を体験させる。</p> <p>②実技中は受講生にカロリーカウンターを貸し出し、各授業時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーの把握させる。</p> <p>③始業から3回の講義時間を「筋力トレーニングの方法とトレーニング機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動を処方できるよう計画した。</p> <p>④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望む様に促し、自己の運動量の把握をすることで、運動意欲を喚起する。</p> <p>⑤①および②について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるようにする。</p> <p>⑥生涯スポーツではチームのメンバーを種目毎に入れ替え、多数の人とコミュニケーションを取れるよう図った。チームミーティングを各試合前後に行わせ、チーム戦略立案、各自の役割、チーム員としてのポジティブな行動を実践させる。また、試合後のミーティングで改善点(課題)などをまとめ記録し、そのフィードバックの成果を実感し、チームで活動する意義を考えさせる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均87 (SD9.2) 再試対象者0人、80点以上11名 (13名中)。途中履修放棄5名おり教職資格科目と総合的な判断がある。単位取得した学生は科目の目標を達していたといえる。</p> <p>受講動機；資格取得目的73%、興味関心46%、単位確保36%、GPA向上9% →興味関心で受講を決めた学生が半数いることは好ましい状況といえる。</p> <p>達成度の自己評価；平均2.9～4.0 (4.0以上1項目/10)、自己評価は低いが、高評価、自己目標の達成感を持った学生9名 (11名中、82%) と単位取得者では高い。</p> <p>授業の質；平均3.6～4.1 (4.0以上1項目/5)、高評価だったといえる。プレゼンと討論の能力の育成を加えたい。</p> <p>学習量；授業外学習が殆どない。授業時に学習記録、運動記録、試合記録を行なっているので、完結した形になっている。学習の工夫の必要性がある。</p> <p>情報利用；シラバスは半数近くが参考になっている。シラバスの充実が必要。</p> <p>図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について

本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識であり、また、生活信念、健康志向、美容的自己管理に関わりのある科目内容と考える。受講生は興味関心から科目を選び、高い成績を収めていたことから、妥当な内容と考える。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性について

成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高いので、もう少し内容を深く進めることができると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生が多いが、「受講動機」が曖昧な学生も存在する中、「学習到達度の自己評価」は8名（11人中）が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容であったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習を全くしなかった者が9名（11名中）であった。

毎回授業で健康への関心が高まって健康的な生活を取り入れてほしい。

シラバスを参考にした者が9名（11名中）、授業計画を立てなかった者が6名であった。シラバスの利用者は5名（11名中）と少ない。

学生が健康へ興味を持って、生涯につながるスポーツライフの必要性を意識できる話題や内容を加味していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回到女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが授業準備になることを確認した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。最後の授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることにより理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネットで調べて考えた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解している層が厚いものの理解不足の学生も一定数いることが確認された。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画、雑誌で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。複数学科で受講しており人数が多いため、双方向のやりとりが困難であることが昨年度の課題であった。今年度は、適宜、前回の授業課題レポートを取り上げ、コメントする時間をもった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識の原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的な家父長制の歴史にも触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>文学という学問がなぜ我々に必要なのか、という問いかけに始まり、文学が実学であることの意義、そしてそれぞれの専門を目指す学生たちが文学との関わりについて重ねて鑑み、自身のアイデンティティと切り離せないものであることをまずは、学ぶ。講義はそこからスタートする。そういったことをベースにして小説、物語、歴史書、古典、映画を見て感動することは即ち自分自身の人生を客観的に眺めていることと同一線上にあるゆえに、人間が生きているための原動力となる探求心や想像力、感動する心を育てるエキスを満ちたことを基軸に据えて、文学を通して自身の生きてきた道をフィードバックすることにより、大切な知識を取得することを主眼とする。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合評価としては85パーセント以上は活かされていると思われるので、なかなかの伸び具合であった。その内訳を説明するならば、講義終了後に提出する課題に対する解答が、講義前の解答よりはるかに的を得ていて、確かに講義をよく理解しているという結果がこのパーセンテージとなった。しかし、まだ完べきではない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目の位置づけから見た妥当性については、85パーセント以上は活かされていると思われる。この数字を具体的に説明するならば、何故に文学を学ぶかという問題意識が如実に進歩成長していることが見て取れたので、この評価となっている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

改善策としてはグループワーク的なことをする日があってもよいと考えている。工夫してみたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況の総括的評価としては、かなり高い成績なので、さらなる向上を目指したいと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	高木 駿

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>webの質問アプリケーションなどを使い双方向のやりとができるように心がけた。また、資料については、文字を入れすぎず、シンプルで分かりやすいものを心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」という回答が多かったので、「やや達成された」という項目を選択した。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムを設定する立場、あるいは、カリキュラムマップを作成する立場にないので、適切なことは言えない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

アンケートにあるように目標達成については「まあまあそうだと思う」以上の回答が大部分を占めているので、基本的にはよい授業ができたと思う。次年度の授業がないため改善等については回答できない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

総括的評価については、既述のとおり、基本的によい授業ができたということになる。次年度の授業がないため課題については回答できない。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名自体は比較文化・国際関係・社会学と多様な内容を含んでいる。そのため本科目は、専門外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科66.7%、福祉学科60%、英語学科に至っては20%となっており、どの学科も関心意欲がそれほど高いとは言い難い。このことは開講時点である程度予想がついていたため、授業では彼らの関心を高めるため、毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」に答える作業を行ってもらった。</p> <p>②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業内容の理解が困難となる学生が出るのが想定された。そこで毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業全体の復習を行った。</p> <p>③比較文化に関しては授業の内容だけではイメージしにくいため、受講者達には「差別」そして「異文化対立」に関連する具体的な動画を見せた。さらにそれぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④授業では受講者にテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。特にテキストの中にある日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせ提出させた。小テストに関しては昨年度の課題として挙げた評価の明確化のため、採点后に点数を表記して返却し、質問のある学生に関しては個別に対応を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目受講者の最終的な成績の平均値は約84点であった。昨年度の平均値が80点であり、平均値の上昇が見られた。再試験対象となる学生は数名いたが、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>学生の到達度自己評価に関するアンケートでは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という回答が4学科平均4.0以上であった。これに関しては本試験前に知識理解を高める小テストを2回実施したことが結果につながったと考えられる。学習量の評価では授業前の予習及び復習に30分以上かけた」と回答した学生の割合がどの科目も半数以上であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性
本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。

②DP、行動目標からみても内容的妥当性
「知識理解」に関する達成度は3学科平均3.6であった。昨年度の平均値4.3よりは下がったが、総合成績の平均点は昨年度より上昇したため、成績評価および到達度自己評価の点では達成されたといえる。態度についても、レポート等の課題提出が遅れる学生はほとんどなく、レポート内容自体も一定の基準値以下はいなかったことから、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ
以上から、「知識理解」に関する達成度の平均値が例年より若干下がったが、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価においては、昨年度の課題であった「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の回答の平均値が3学科平均4.3以上と高い評価が得られた。一方で、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の回答については3学科全体の平均値が3.2と低かった。科目の内容的にグループ討論等を行う事が難しいが、内容に則したQ&Aやアンケートの実施を毎回の授業で行うことで改善の余地はあると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前々年度からの課題である予習、復習を含めた授業時間の向上、前年度の課題である小テスト評価の明確化については、いずれも昨年度より高い数値の回答が得られた。小テストの実施と事前予告は授業時間の向上に非常に効果的であり、次年度も引き続き行っていきたい。
課題としては予習、復習時間のさらなる向上が挙げられる。この点に関しては授業の中で行っている小テストの範囲を事前に予告することで、学生にこれまでの授業内容を積極的に復習してもらおう。またレポート等の課題についても、今年度は1回目の講義にて学生たちに「レポート・論文の書き方」という表題で講義を行う予定である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語発展の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の50.0%を除いて、②「資格取得に必要である」は50.0%で③「関心のある内容である」は66.7%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。</p> <p>2. 受講人数が8名で、語学の初級としては妥当と思います。学生一人一人に対して指導ができます。</p> <p>3. 「コミュニケーション力や表現を高めた」が4.8の数値であることから学生たちとの交流は十分に取れたことが伺えます。今後の授業においては、このままの状態を維持し続けて、学生間の会話ができる場面や機会をもっと増やしていくように工夫したい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. A評価は5名、B評価は1名、C評価は1名、E評価は1名であり、最終的な成績の平均値は「84.2点」であった。標準的レベルを超えて、理想的レベル(定期試験および平常点の総合として80点以上)に達していた。</p> <p>2. (DP-1)の知識理解、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。</p> <p>3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することを評価するべきです。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点4.7点、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.8点、⑥「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は4.8点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。
2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。
3. 「図書館やインターネット等の利用」は、授業学習に関する内容はあまり利用しないことが見られたことから、授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語発展は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。
2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル発展	1	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」85.7%、「単位数を確保する」42.9%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由には、「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をすることで自習を促す。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は83.6点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは5名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては81.4%、機能表現は85%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また技能表現では、「私の一日」発表テストと会話テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかり把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が語学の基礎的レベルには達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演やさまざまな資料等から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることを社会の中でどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えている。到達度自己評価ではいくつかの項目について1、2名の学生が「全くそうではないと思う」または「少しそうでないと思う」と回答しているが、ほとんどの学生が肯定的な回答をしており、平均値は3.5～4.4、中央値は4.0～5.0であった。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、若干名が「全くそうではないと思う」または「少しそうでないと思う」と回答しているものの、ほとんどの学生が肯定的な回答をしており、二つの項目を除いては中央値が5であった。中央値が3.0であったのは、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目だった。200名を超える学生が履修している授業なので、学生が発言する機会を設けるのは難しかったが、その代わりにさまざまなアプリ等を活用して、学生が自分の考えを述べる機会を設けるなどしたが、毎回行えなかったため、もう少し回数を増やすようにしたい。中央値が4.0出会ったのは、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目だったが、毎回Googleフォームで質問やコメントを受け付けるようにし、質問があった場合は次の授業で答えていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As the syllabus states, this course is built around community involvement and current environmental issues. Using Sustainable Development Goals (SDGs) as a backdrop, and a number of community NPO activities as a focus, we created activities and materials to highlight the issues which these groups are seeking to fix, especially in a local context. This year we once again collaborated with the Tourism Department on a series of activities. We began with a focus on learning about SDGs through games and other activities. The second half of the semester focused on planning a community project called "Plogging" - an activity that involves community volunteers jogging while picking up garbage. The activity was run in collaboration with a number of local groups, and attracted around 200 people.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>This was a good class. Grades showed a range from a minimum of 75% to a maximum of 98%. The average grade was 88.9% with a standard deviation of 10.7. Grades were largely determined by effort and results in activities, with a final scoring based on their final presentation and reports. One student failed the course through low attendance and work completion.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

All DPs were adequately achieved this year. The students showed great willingness to participate (DP3) and had a very positive attitude to their studies (DP4), even when working with the other department's students. Their knowledge and understanding (DP1) of the issues definitely increased during the course of the class. With these in mind, it seems reasonable to assume that all three DP goals were well achieved.☒

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As I will not be teaching this class this coming year, I'm not in a position to implement any changes. However, I would recommend continuing to collaborate with the tourism students. Also, I feel it is better to focus on local projects with clear and tangible results that the students can identify with.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As I will not be teaching this class this coming year, I'm not in a position to implement any changes. However, I feel the task-based assessment used in previous years is adequate for the needs of this class.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目で、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な話を伺ったり、ほかにも子育てに積極的に参画するようになった父親の行動変容の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、学生とのやり取りも昨年度より多く取り入れて授業を進めた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いため個別対応がすべての学生とはできなかった。昨年度はより多くの学生に個人的な意見を聞くようにしたが、活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションII	1	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ても100%が①必修科目であるを選んでいる通り、この科目は学科の専門必修科目である。グラマーの授業であり、英語運用能力を向上させるためには必須の科目であるが、高校までの文法の授業とは異なり、自分で家庭学習を中心とした反転授業にすることにより、たくさん問題を解き、授業ではわからないところを持ち込み理解を深める時間とした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講生の約8割以上が「自分なりの目標を達成した」という項目において「かなり/わりにそうだと思う」と自己評価している。また、知識の習得に関する自己評価は8割が「かなりそうだと答えている。また、態度、技能などを見ても同様な傾向が見られる。予習復習にも時間をかけていることに加え、自分なりにわからないところを学習していることが記載されている。これらのことから、ほとんどの学生においては、教育目標の達成が認められると言える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

すべての英語スキル科目に繋がる入門の科目であり、DPCRカリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容としては妥当であるといえる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

この科目では、学生の自宅学習からわからないところを授業で共有してもらい、その文法事項に関してできるだけわかりやすく説明することを心がけた。そのため、授業の質評価で、「説明はわかりやすいものであった」というのが平均値4.6であったことは嬉しいことである。学生の自由記述をみると、「わかりやすく、具体例を何パターンも使って教えてくれるので、掴みやすくてとても楽しく授業を受けられた」や「とてもわかりやすい解説で、英語力がとても上がったと思う。また、授業を受けたい」というようなコメントがある。一方で、3名の学生がわかりやすい授業に関して「まあまあそうである」と回答している。丁寧に声掛けを心がけたが、まだ十分ではなかったことがわかる。ついてくるのが難しい学生たちに対する声掛けや対応を改善する余地があるといえる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育目標の達成度としては、充分達成したと高評価をしている受講生が8割強であったが、1割の受講生が「まあまあ」と消極的な自己評価をしている点から、もう少し個のニーズを把握した授業のやり方を考えなくてはならないと反省した。次年度も、わかりやすい説明は心がけながら、適切な場面でフォローができるよう工夫をしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC 550-600点以上を目指し、その出題形式・傾向に合わせた問題演習を豊富に行った。毎回実施したミニテストで語彙力強化を測った。受講者には毎週テキストから切り取り課題のリスニング問題を提出してもらった。学生全体の中間的レベル～ややハイレベルを想定した目標スコアを設定し、TOEICの出題形式・傾向に即した実践的練習に重点を置いた。特筆すべき受講動機には「関心のある内容である」22.7%である。英語学科ではTOEICなどの外部試験の成績が就職におけるアピールポイントとしての資格として重要であることを学生は認知していると思込んでいたが、数値が低いのは、TOEICの必要度は理解しているが、自分の英語力を悲観化しており、関心はないということなのかも知れない。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の明暗を分けたのは、主に毎回の課題とミニテストの点数であった。これは、十分に時間をとって学習すればそれだけの成績がでる内容であったので、頑張っって良い成績を収めた学生が、そのぶん実力も身につけて、成績として評価されたことの証である。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生アンケートの到達度自己評価は(1)3.3,(2)4.1,(3)2.9,(4)4.0,(5)3.8,(6)4.1,(7)4.0,(8)3.5,(9)2.6,(10)3.5であった。去年は(1)3.9,(2)4.4,(3)3.9,(4)4.3,(5)4.2,(6)4.3,(7)4.3,(8)3.7,(9)3.8,(10)4.1とあまり変わらない数値であることと比較すると今年の数値で特に(3)や(9)が低いことは学生が真摯に評価していることの証かも知れない。今年の授業の質評価は、(1)4.3(2)4.5(3)3.7(4)3.4(5)3.7であった。(4)が低かった。定期的に学生を当てて発表させてはいるが、TOEICという授業の特質上、詰め込む内容が多すぎて、意見、話し合い、発表に重点を置いている授業ではないことは認めないといけない。半期だけの期間で、急にTOEICでいい点を取るの難しく、この授業はあくまで、スタート地点に立つための授業であるので、新カリでは1-3年生が継続して受験し続けるシステム作りをすることで、学生も成功体験を経験し、幅広く就職活動を行うことにつながればと思う。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価は、(1)で⑤を選択した学生が14名と最も多かった。(2)でも⑤が7名と多かった。自由記述欄の授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習としては、「単語学習」「TOEICの問題集」などがあがった。しかし、授業課題のレポートを・・・次のうちどちらかを選択： ・実際のTOEICを個人で申し込んで、受験したことがわかるスコアレポートのコピーし、裏面に自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く ・TOEIC公式問題集の1回分を解答し、添削し、解説を読んで分かったことや、自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く、としており、授業課題とはいえ、真剣に取り組めば、自学の領域に達する内容としていたので、総合的に判断して、学生はたくさん学習してくれたと結論づけたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>使用したテキストの補助教材も充実していて、全体としては満足のいく授業を行えたと思う。できることなら以前のようにもっとTOEICのコースが細分化されていればさらに学生のニーズにあった授業が行えると思う。自由記述欄(一部)例「リスニング問題も豊富で、リーディングが特に苦手なので課題のディクテーションはとても役に立ったと思う。」リスニングの自宅課題を毎回出したことへの肯定的な上記のようなコメントが多かった一方、「プリントに書かれている説明以外の解説をもっとしてほしいと思いました」というコメントがあった。内容の全てを説明するには、時間的な問題もあり、プリントで済ますこともあるが、解説を読んでも理解できないというこのコメントは初めてのパターンであるが、基礎学力のない学生の心の叫びであると真摯に受け止めたい。毎回の授業で質問がある人はいないか声がけを行う際、プリントの解説についてもわからなければ質問できるような雰囲気作り心がけたいと思う。また、「最初は、毎授業の宿題であるListeningの問題が全然うまくいきませんでした、最後の方で満点を取ることが少しずつ増えてきて、その時に先生から「素晴らしい!!」とコメントをもらったことが1番嬉しかったです」と記入してくれている学生がいた。確かに、毎回返却する課題にコメントをつけることをできるだけ習慣としているが、それが学習意欲につながっているということを知れて今回の授業フィードバックで私も1番嬉しかったです!</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習II	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC650-700点以上を目指し、その出題形式・傾向に合わせた問題演習を豊富に行った。また毎回実施したミニテストで語彙力強化を測った。毎週覚える単語数は、80ワードくらいで、学生たちは毎日平均10単語くらいのテストをした。また受講者には毎週テキストから切り取り課題のリスニング問題を提出してもらった。受講制限は設けなかったが、受講基準を「TOEIC600以上の英語力」としていたので、結果的に11名の学生が受講した。受講動機は必修のTOEIC演習Iが②9.1③22.7であるのに対し、選択のTOEIC演習IIは②63.6③54.5であり、意識の高い学生が受講したことが伺える。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の明暗を分けたのは、主に毎回の課題とミニテストの点数であった。これは、十分に時間をとって学習すればそれだけの成績がでる内容であったので、頑張っって良い成績を収めた学生が、そのぶん実力も身につけて、成績として評価されたことの証である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生アンケートの到達度自己評価は昨年は(1)4.0,(2)4.7,(3)4.3,(4)4.4,(5)4.4,(6)4.4,(7)4.4,(8)4.2,(9)4.4,(10)4.3であり、今年は、(1)4.1,(2)4.5,(3)4.1,(4)4.5,(5)4.5,(6)4.7,(7)4.6,(8)3.5,(9)3.8,(10)3.9であった。自由記述欄には、「以前のTOEIC演習と比べてもかなりレベルアップして、課題や単語を覚える量は膨大でしたが、おかげで、問題を解く中でわからない単語を見かける回数が減って、更に勉強を続ける意欲を養うことができました」「課題でも教科書でもリスニングをしたのでリスニングの能力がだいぶ上がったと思う」などと、語彙力とリスニング力が伸びたという意見が目立った。TOEIC演習Iのハイレベル版として、就職活動で外部試験の結果をアピールできるようにする授業の立ち位置も踏まえ、内容的には妥当であったと判断する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価は、(1)で⑤を選択した学生が3名と最も多かった。自由記述欄の授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習としては、「単語学習」「TOEICの過去問」など(結果としては)課題に関するものが多かった。授業課題のレポートを・・・次のうちどちらかを選択：
・実際のTOEICを個人で申し込んで、受験したことがわかるスコアレポートのコピーし、裏面に自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く
・TOEIC公式問題集の1回分を解答し、添削し、解説を読んで分かったことや、自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く、としており、授業課題とはいえ、真剣に取り組めば、自学の領域に達する内容としていたので、総合的に判断して、学生はたくさん学習してくれたと結論づけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生たちはこの授業のために単語をたくさん覚えたり、授業で使用するテキスト以外にもレポートという形でTOEICの問題集を解いたり、限られた時間の中で、自発的によく勉強していた。教員が、特にTOEICに特化した英語教育の勉強会などにもっと参加する必要性を痛感する中、今年は海外の英語教育学会に参加できてとても有意義であった。また学生からは、アンケートの自由記述欄で教授法に関して以下のとても興味深い提案をもらったので活用してみたいと思った。「リスニングに関してもっと深く学びたいと感じました。実際に全問のスキリプトを音読したり、シャドーイングをすることもっと有意義な授業になると思いました」

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションII	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As is usual, we were able to continue the work started in Semester 1, and focus deeper on the content and delivery of presentations. We continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Class A achieved an average grade of 87.89% while Class B achieved 96.0%. Lowest passing score was 81%, highest was 98%, with a standard deviation of 5.48 and 4.01 respectively. Each section of the course was divided into tasks that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. Grades were overall about the same as previous year.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Knowledge and understanding (DP!) of the design and implementation of good presentation remained strong. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their generally positive attitude covered DP4. Overall, the students who passed the course satisfied the criteria of all the DPs.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Research and investigative skills were stronger this past year, but there still needs to be more focus on research and finding a deeper level of material for their presentations. Although their presentations and performances has been much improved, the content of what they work on still needs more work. Research-based activities should help alleviate some of those issues.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

For the coming school year, we will focus on improving the depth and scope of research activities so that the students are able to develop a stronger research base for their presentations. This will be done by looking at where to source research material and how to refine research criteria.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of 英語コミュニケーションI. The main goal is to reinforce the main points presented in the first semester. Various activities are used to give students the opportunity to use and reinforce communicative language techniques. Topics and scenarios connected to interaction with non-Japanese are presented. The students were engaged participants who improved their skills as was hoped for. All the interaction within the course is also a good opportunity for students to build a community amongst the students.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The goals for this course were achieved overall. Almost all students in the higher group received either an A or S in the course, while most of the students in the lower group received either an A or B. They also evaluated their communicative skill improvement at 4.5</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course is well placed on the curriculum map and serves as an important step towards the other communicative classes. Seeing that the students had a positive attitude and interest in the course is a good indicator for future communicative courses. This course, as stated above, also helps to create a sense of community amongst the students.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The class is highly evaluated and plays an integral role in their preparation for further communicative classes. The course works well at the moment and there is no need for any major changes. They all had a good attitude and tried sincerely. Perhaps showing how what they learn in this course can be applied in their other classes and future classes made the material more relevant to them. It remains important to make the course a bit more challenging in the latter part of the semester for those students who have mastered the material and skills presented in the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The course was a success and generally provided a good grounding of communicative skills for future development. The students did well and their attitude and performance was very positive. It is hoped that they will apply these skills in their future studies.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a Communication based class. In this class, students practice reading, writing, listening and speaking, but the bulk of the activities were speaking based. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. The textbook exercises, along with supplementary communication activities, helped students review and reinforce their basic English skills. None of the learning conditions were significantly effected by online learning, as the teacher was able to accommodate all forms of practice through pair work, small group work, and large class activities through real time online lessons.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Assessment was made based on attendance (15%), small and large group participation (30%), quizzes and presentations (35%), and a final test (20%). Most students were able to achieve a final grade of 70 - 80%.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members, and by working together in small groups. Good classroom dynamics helped to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. While a lot of material was covered over the course of the semester, students seemed satisfied with pace and progress of the class.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Review of the previous class material is always useful, but often took time away from new class material and practice. By posting all pre-study and post-review materials in the online learning management system, students had unlimited access to class material. This proved to be especially helpful for lower students who benefited from reviewing target language and skills for each unit at their own pace.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

More detailed instruction on note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to review lesson targets again, and prepare for the next class using the posted review material and preparation homework.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This active learning course is divided into discussion and presentation based learning. Through active listening and reading comprehension activities, students have the opportunity to learn about relevant social issues which are currently being discussed on a global level. After gaining an understanding of an issue, students are guided through intermediate level discussion and information gathering activities, and learn key language to express individual opinions as well as respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. Finally, students are encouraged to prepare and present on the specific topic using the language and knowledge they have acquired throughout the lesson.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Assessment was based on attendance 10%, completion of weekly homework assignments 20%, online presentations 30%, unit quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students learn to prioritize helping and receiving help from other class members, and working together in small groups. Good classroom dynamics help to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributes to a high level of participation and increased understanding of the material. Students were also encouraged to move outside of their usual cohort group to gather information on the assigned topic from friends and family members across-generations. This expanded data collection and allowed students to come to class with a variety of opinions and ideas related to the topics being studied.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The small number of students in this discussion and presentation class provided students the freedom to express themselves more freely and more comprehensively as turn taking was not prioritized. Students could contribute multiple times each class which was beneficial to the teacher because she could dedicate more time to in-depth feedback and assessment. Students could really benefit and improve from this added attention.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The teacher's strict attention to attendance taking as well as weekly grading and active monitoring of homework and class participation is an absolute necessity with active learning. Of course, some students needed more teacher encouragement, reminding and pressure in order to keep up on assignments.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The focus of the course is to further develop the students' discussion and research skills with topical issues that will affect them in their lives. Part of this development focuses on collaboration. Students are expected to work well together in groups and spend significant time researching and discussing different aspects of a topic in preparation for a final class presentation.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The focus of the course is to further develop the students' discussion and research skills with topical issues that will affect them in their lives. Part of this development focuses on collaboration. Fortunately at the beginning of the semester we were able to have face-to-face classes which helped to get the students to work together more actively than in the first semester. The goals for this course were definitely achieved. 80% of students in the higher group received either an A or S in the course, while slightly more than half of the students in the lower group received either an A or B.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

As a third year course 英語プロジェクト fits well within the curriculum map. The students need to apply the skills and knowledge that they've gained in the first two years to benefit from this course. The results show that this is the case. In regards to DP3 the selection of topics that the students presented on in class fall well into this framework. It also sets a solid foundation for the students' thesis research paper to be completed in their 4th year.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The focus of the course is to further develop the students' discussion and research skills with topical issues that will affect them in their lives. Part of this development focuses on collaboration. Fortunately at the beginning of the semester we were able to have face-to-face classes which helped to get the students to work together more actively than in the first semester.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The students did a great job of collaborating, researching and presenting on a variety of topics. From a course perspective there is no need to make any drastic alterations, other than to adapt the topics to the interest of the next group of students.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グローバル英語 II	4	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The focus of the course was developing students' business English skills, in particular their ability to conduct first contact conversations, to greet guests, to ask for and offer help, to make and take phone calls, to write emails of varying levels of formality, and to describe graphs displaying information about sales figures and related information. The course involved learning various vocabulary and functional phrases to achieve these tasks, and practicing these through various individual and pair activities. I changed the focus of this course last year as I found from student feedback and analysis of student performance that the previous focus on media and news was too difficult for the majority of students, and did not really give them the type of practice they needed to strengthen their language skills. Student feedback on the current course focus seems to suggest that the new course content is more appropriate for them.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The results of the various assessment tasks conducted throughout the course show that the majority of students managed to gain an acceptable ability to perform the tasks covered in the course. There was also a reasonable ability to communicate in both formal and informal styles in an appropriate manner. While there was still room for improvement, overall the majority of students managed to achieve the required level of achievement.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Overall I feel that the course went smoothly. In hindsight I had tried to cover too much material and had to make adjustments regarding this during the course. Also, the performance nature of the assessment activities required much time, which became difficult due to the class size numbers. The issue of giving an equal amount of feedback to all students on speaking-based practice activities was also an issue at times. I would like to consider ways to deal with these issues in the current academic year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall I feel that the course was beneficial to students, and student feedback also indicated this. However, I will need to focus on fewer learning points in order to allow for more practice time during class. Moreover, I would like to continue thinking of ways to tweak the performance-based assessment tasks to allow for these to be completed within the time restraints.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングII	1	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This class was taught one time to cover for Prof. Collett as he was required by the school to take one semester's leave. The course is built around extensive reading which requires the students to read as much content as possible to build up reading speed, comprehension, and vocabulary assimilation. We accomplished this by using the XReading subscription service which allowed the students to read books online through any device. They also had a textbook "Success With Reading" which was used for classroom practice, plus I supplemented with other materials and activities.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The average grade was 87.7% with a standard deviation of 9.51. The highest score was 98% and the lowest was 71. All students passed the course apart from two who dropped out part way through.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students succeeded in DP1 and DP3 but struggled a little with DP5 because of the high requirement for out of class study.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As I was only teaching this class as a reliever for one semester I cannot comment on this.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As I was only teaching this class as a reliever for one semester I cannot comment on this.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングⅣ	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>特に重点を置いている点は以下の通りである。・文章の主旨や目的が推測できる。詳細が推測できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味を読み取ることができる。言い換えがあっても、事実に基づく情報が理解できる。 ・文章全体にわたる情報を関連づけることができる。関連する二つの文章のつながりを理解できる。 ・幅広い語彙、よく使用される単語の例外的な意味、慣用句的な使い方が理解できる。また、似たような意味で使われる複数の単語を区別することができる。 ・規則に基づいた文法構造が理解できる。また、難しく、複雑で、あまり使用されない文法的な構造が理解できる。これらの能力を身につけるために、この講義の受講資格は今回は設けなかったが、TOEICの教材を使いながら精読・速読の両方のハイスキルを身につけるよう指導を行なった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績と授業アンケートの到達度自己評価によると、「(1)自分なりの目標を達成した」と感じている生徒は、平均値が4.1であったことから「やや達成された」と評した。また、学習量の評価(1)では、14人中5人が0回と回答しており、6回以上と回答したのはわずか3名である。(同じやり方でして去年は、13人中7名が6回以上と回答している)前週の復習を兼ねた単語テストの準備をしていたら必ず30分以上はかかるはずであり、その単語も授業の最後の回で再びテストがあるので絶対に覚えられないといけないことは学生はわかっているはずではあるが、毎回のテストを点数化した方がいいということであろう。是非とも次回はそうしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業アンケートの達成度自己評価は(1)4.1(2)4.6(3)3.9(4)4.5(5)4.5(6)4.5(7)4.4(8)3.4(9)3.6(10)3.6であった。ひたすら読解力を身につけるのがこの授業の目的であり、それ以外の付加価値(8)(9)(10)などにはあまり焦点を当てていなかったため、内容的には評価は妥当であったと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では去年は(1)4.7,(2)4.9,(3)4.8,(4)4.6,(5)4.8であったのでかなりの数値の上昇が窺えるが、内容的には同じであった。例(一部):「リーディングのスピードが以前よりは早くなったと感じた」「リーディングに対して苦手意識を持っていたけど、解ける問題が多くなるにつれて段々とその意識がなくなっていったような気がします。この授業が終わってもリーディング問題に挑戦していこうと思います」今年は、TOEICリーディング教材を扱ったこの授業とTOEIC演習IIが連続コマであったこともあり、両方とも履修した学生もおり、集中的に効率よく勉強できたのではと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今回は受講資格を「TOEIC500以上が望ましい」としたことで、それ以下の学生も受講して、いろいろなレベルの学生が混在するクラスとなったが、ハイレベルの問題であってもほとんどの学生が、「説明は理解しやすいものであった」が平均値4.8と理解していたようで、良かったと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期の「英語学概論Ⅰ」で言語学の4つの分野を学んだことで、英語学という学問が言語を複数の分野から分析的に捉えるための理論を学ぶ授業であるということは理解できている。また、英語学概論Ⅱは選択科目であるため、履修した学生たちは英語学に関心を持っている学生であると言える。受講動機を見ても72.7%が「関心のある内容である」と答えている。これらのことから、開講時の学生の学習準備性は十分整っていると言える。難しい内容であるが、受講者が自身の学習にこれらの知識が役に立つと思えるようにわかりやすく、例をできるだけ多く用いながら講義をすることを心がけた。英語という言語に関心を持ち、知識を深めることができるようになることに一番重点をおいている。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価の結果を見ると、(1)「自分なりの目標を達成した」は平均値4.6ですべての受講生が「かなりそうだと思う」又は「わりにそうだと思う」と評価している。知識理解に関しては(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.9、(3)事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が平均値4.7であった。意欲関心に関しては(6)「自分の専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.8であった。技術表現に関しては、(7)の問いに対し平均値4.6であった。これらの評価から、受講者自身の目標達成がある程度感じられる。また、教員側が期待した内容理解とそれを自分事として考えようとする姿勢は授業内でも試験でも見られた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は学科専門必修科目である。英語に関する知識を深めることを目的とした科目であり、英語を専門として学ぶ学生にとっては「ことば」に関心をもつ入門の科目となる。DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容は妥当であると言える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価アンケート内の「授業の質評価」5つの質問項目の中で、「説明のわかりやすさ」と「授業中に学生が参加する機会が与えられていた」はどちらも平均値が5.0であり、「課題の評価規準の明示」の平均値が4.9、「学生が質問できる機会」が4.8であり、授業の進め方に関しては、今回の方針・方法で次年度も引き続き実施してよさそうである。「英語学概論Ⅰ」の時の課題であった、授業外の学習時間に関しては、少し改善している。実際に課題を出して、やってこないと授業でディスカッションに加われないこともあったため、全員やっていると思うが、自己評価では0回と答えている人がいるのは不思議である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

英語学の理論を中心とした講義で、少し難解な内容も含むため、学生たちにわかりやすく教えることに心がけて授業をしてきたが、受講生の理解度や意欲が相対的に見て満足できるものであった。ただし、前期の英語学概論Ⅰ同様、学習量を自覚できるように促す必要がある。予習は課していないのでよいが、復習や発展課題を自覚してさせるためのさらなる工夫が必要である。この点を反省し、次年度は授業内で学習したことを身の回りの言語現象に引き寄せて考えることが学習であることを認識させ、それら現象を記録させ見える形で残させるなどの工夫をしたいと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は専門必修科目である。受講動機を見ると、「必修科目である」と共に「関心のある内容である」と回答している受講生もいる。ライティングの科目であり、4年で卒論を書くための基礎の授業となるため、できるだけ具体的に英語の段落の構造を理解し書けるようにすることに重点をおいた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価を見ると、30名中29名が「自分なりの目標を達成した」と評価している。また、知識の確認、修正、習得についても29名が達成したと評価している。学習量の評価を見ると、予習・復習を含むライティング課題に時間をかけて取り組んでいることがわかる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は学科専門必修科目である。英語のライティングに関する知識、技能を深めることを目的とした科目であり、ライティング基礎の次の科目として段落構成を学ぶ科目である。この後、エッセイライティング、卒論と系統的に学ぶようになっており、DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容は妥当であると言える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価をみると、課題の提示の仕方の明確さ、及び提出物などに関する評価基準が明確であったと全員が回答している。また、説明が理解しやすいものであったかという質問に対しても全員がそうであると評価してくれている。また、自由記述を見ると、「英語でパラグラフを各練習をたくさんして、そのスキルが身に着いたと実感することができた。また、先生は学生一人一人の質問を無視することなく、学生がわかるまで教えてくださることが印象的。英文を作ることは苦手であったが、この授業を通してやればできると自信を持つことができた」など、その他にも「わかりやすかった」「身に着いた」「質問しやすかった」など、授業の進め方に関しては好意的なコメントを残してくれている。このことから、この科目に関しては、次年度以降も同様の姿勢で学生たちに寄り添いながら行っていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

ライティングの基礎となる科目であるため、丁寧に添削、説明をしながら進めていった。その甲斐あって学生たちの自己目標の達成度は高い。このことから、この科目に関しては、次年度以降も同様に丁寧に寄り添い、書くことが苦手な学生に抵抗感を持たせないようにサポートをしていければと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語文学 II	2	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムになり選択科目になったとはいえ、選択肢が少ないので、文学を勉強したい学生もそうでない学生も受講することとなり、受講動機として④が66.7%である。しかしながら受講動機の③が40.0%と最も高いのはポジティブなデータである。そして、必修ではないが、受講人数を見てみると半分以上の学生が選択していることがわかる。どのような学生にも文学の知識や楽しさを教授できるように工夫している。しかし残念ながら⑦先輩に薦められて受講したと選択した学生はいなかった。（しかしながら他のアンケートを見てもこの数値はほぼ0である）</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価においては、(3)で4.6であり(2)(4)(6)(7)で4.5で概ね高かった。(9)は例年低めの評価となる。前年は4.2、今年4.3とまあまあ高い。英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目であるが前年今年なぜ向上したのかわからない。評価が2年前4.0であった(8)において、去年は対面になったという点も上げることができるが、4.2と上昇していたが、今年は3.9と下がった。グループディスカッションなどをもっと促す機会を設けようとするのだが、和訳の表現、という面では、アンケートの自由記述欄に例えば、「1年にわたって英語文学を読む中で、ただ内容を理解するだけでなく、登場人物の考えを理解することが大切だと学びました」とあるように、表現が上達したという趣旨のコメントが多々あった。</p>					
*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>	<p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）」の評価では、0回の学生が11名で、1回の学生が11名であった。そして、学習量（課題以外に取りくまなかった）においては、ほとんどの学生が「課題で十分」などと回答している。また気になる回答として、「特に何をすれば良いかわからなかった」と記入した学生が1名いた。課題をたくさん出しており、その課題でDRCPを達成するよう意図していたので、総合的に見て内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」は(1)(3)4.7、(2)4.6、(4)(5)4.5であった。この授業では、対面になったとはいえ、遠隔授業で使用していたクラスルームを課題提出の場や、資料アーカイブを閲覧する場として毎週使用しており、遠隔授業での経験が生きてより充実の内容となったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、総合的には「達成」であり、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。今回も、授業アンケートの自由記述欄に学生たちがたくさん肯定的な感想を書いてくれた。その中でも、文学を前期・後期と継続して行った自分の成長や、和訳の面白みや文学への興味関心への気づきが目立った。例（一部）：「英文学を1年間学んでリアルな英語表現や日本文学との違いを学ぶことができました。前期に3つ後期に2つの名作を読むことができ、自分の視野が広がったように感じました。初めは翻訳が難しく正確に訳すことができなかったけれど、みんなの訳を聞いていると自由な表現でいいんだということを知れて、そこからは自分なりの言葉に変えたり、日本文学っぽくしたりするのが楽しくなりました。色々な有名な翻訳家の方がその方オリジナルの表現をしているのに気づいた時に嬉しくなったり、英語を学ぶ学生としてかなり幅が広がりました」など。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	齊藤 園子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語力の総合的な向上も本授業の目標として重視したが、英語運用力が高い受講者が多かったため、高い専門性を生かしつつ、通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを身に付ける実践的な機会をより豊富に提供するよう心がけた。前期から継続して受講した学生もあったため、前期の内容との連続性や発展性に留意した。課題量は多くなるため、第1週の授業で説明した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講者は授業課題の予習復習に丁寧に取り組み、通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルに加えて、より実践的なスキルを身に付けることができた。受講者の取り組みを高く評価したい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

該当DPのいずれにおいても要件を十分に満たす科目となったと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

英語運用力が高く、意欲的な受講者が多いクラスだったため、課題も多くなったように思われる。課題量の調整も含めて、一層細やかな授業運営を行っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

概して教育目標は達成された。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of the Media I course that students worked on in their first year, though it extends their skill level. The course was run in the iSwitch Mac room, 6208, so we were able to use the facilities there to complete a wide range of media projects. The students also used their home PCS and their own smartphones as extension tools, facilitated by access to the Google suite of tools and the My Study portal. During the course, they completed a wide variety of projects, such as research, using SNS, filmmaking, surveying, and storywriting - all in English.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, completion of activities, and a final presentation. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 87.9% with the lowest being 72% and the highest being 94%. The Standard Deviation was 6.92.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This was a small class due to the number of students studying abroad. Overall, the remaining students covered the requirements of DP1, DP4, and DP5 well. This was a very motivated class because of the practical and creative nature of the classes. There was a strong collaborative and social nature to the activities, meaning that students could share their strengths and get assistance with their weaknesses. This was also a class where they could show their creative side, and many of the projects they completed reflected this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I intend to continue rewriting the programme to offer students a greater variety of activities and a choice of which to do, plus integrate more changing technologies such as the use of AI. Basically, each class would revolve around a topic or skill area, there would be a workshop for students to take part in, and from there they could choose from a menu of relevant activities.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

With the continuing use of customised rubrics, a clear assessment framework should be achievable. As the course is task- and project-based, there is definitely more scope for personal and peer assessment, and I hope to build these even more fully into the assessment system. Many of the activities we do are either easy to self-assess because students can either complete or not complete them, or there is a creative element which they should have more say in self-assessing.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用時事英語	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>時事英語入門から発展した形として、記事の内容により深く興味・関心を持ってもらうために、英語そのものだけでなく、取り上げた内容に関連する背景知識にも言及するようにした。また、社説など比較的長い論説記事を毎回取り上げて、応用クラスを受講しているという実感、さらに満足感や達成感をもってもらえるように心がけた。応用というクラスを踏まえて、内容に関する意見交換や発表なども数多く行い、担当教員と受講者間での双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中23.6、定期試験の平均値は50点満点で42.3点で、いずれも昨年よりもスコアが上昇しており、教育目標は達成されたと認識している。しかしながら、1名の受講生（4年生）が他の受講者よりも筆記試験で著しく得点差があった。度々欠席をする学生だったので、メール等でより積極的に出席を促すなどのフォローアップが必要であったと痛感している。その一方で、積極的に授業に参加している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点の配点に対して20.9という平均値が出ている。先ほど言及した学生も出席した時には積極的に発言していたので、その点は教育的効果があったと自己評価したい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

政治や経済に代表される時事的内容は、日常生活を送るうえで学生が意識的にふれる機会が少ない分野である。新聞、ネット、テレビなどのメディアでその一部を見聞きすることはあっても、それらを英語でどのように表現するのか、というところまではフォローできていない。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

担当教員への意見など自由記述はなかったが、少数のクラスだったので、毎回受講生同士あるいは教員と学生とで記事の内容に関する意見交換やディスカッションができた点は、非常に良かったと思う。また大半の受講生が無遅刻・無欠席、さらに中間試験や定期試験などの筆記試験も満足のいく結果が出ていた。改善すべき点は、欠席しがちな学生に対して、欠席したその日のうちにメール等で連絡するなどの対応を取りたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展させていく、という目標は達成できたと思われる。課題としては、欠席過多の学生に対して、学科教務委員の先生に対応をお願いするだけでなく、自らもメール等で積極的にアプローチを試みるなどして授業への参加を促していきたい。そのためには、学生が快適に授業を受講できるような雰囲気づくりであったり、担当教員の「人間力」を向上させる取り組みが必要であることを痛感している。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションII	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course was a continuation of 異文化コミュニケーションII held in the first semester, but looking at the topic from two specific angles: "tabunka kyosei" in the context of Japanese society, with a focus on immigration and issues pertaining to foreigners and people with multicultural roots, and the use of English/communication in multicultural workplaces. I tried to make the content more accessible and relatable through inviting guest speakers, using multimedia and internet resources, incorporating research-based activities, real-life materials and resources, and case studies. I also made an effort to incorporate more opportunities for group work and discussions.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The majority of the students showed an understanding of the course content through their submitted assignment activities and end of semester reports. In 異文化コミュニケーションII in the first semester, quite a number of students demonstrated a lack of understanding of how to write an academic paper, so I made time in this course to give instruction and advice about this. This led to improvement in the quality of some papers, but this seems to remain an issue for some students.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problem regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This year I made a particular effort to incorporate more practical, group and discussion activities to try to help the students more deeply engage with the course content, and see the relation between what we are learning and how it plays out in the real world. I feel that this change in approach was effective, and I will continue to experiment with this.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I feel that the incorporation of more practical, group and discussion activities was helpful in achieving the course aims and maintaining student interest. However, there is room for further improvement, and I will continue to consider better ways to achieve the course aims. Moreover, I need to think more about how to support students with their final reports, and the requirements of academic writing.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エリア・スタディII	2	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course is for the students to research and learn more about a particular area in the world and its significance with Japan. The increasingly important region of ASEAN is the focus of the course with a range of topics being introduced, researched and presented about. Student centered activities intend for the students to learn in more depth about the region and to improve their ability to convey their research results to their classmates. It is also hoped that the students will improve their note-taking skills and their ability to make further inquiries about the material presented by their classmates.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>As the course requires a lot of work and preparation continuously throughout the semester there are a wide range of results. It was, however, reassuring to see that almost all of the students received a score of A or higher. This is a reflection of the interest and effort they put into the course. A score of 4.4 was given for acquiring new knowledge as well as for gaining new perspectives, which indicates the achievement of the course's goals. This is further supported by their use of the internet for research purposes, as well as the amount of regular work they put into the course for review and preparation.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course aims and contents match well with the DPs as described above. The course is also well placed in the curriculum map as it takes advantage of the skills taught in other courses to fulfill its aims. There were no particular issues that required reworking the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

With the course evaluation scores in the 4.2-4.4 range, as well as the time and effort that the students indicate having put into the course, leads me to believe the course was a success. Although there was a lot of work for them to do, the majority of them rose to the challenge and did good work, as almost all of the students had a score of A or higher.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

It is felt that the course was a success. Maintaining student motivation and interest throughout the semester is the biggest challenge, because of the continuous work and preparation involved, as well as the fact that a lot of the information is new to them.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、国際関係論の基本的な知識を身に付け、世界情勢を眺め、論じる際に依拠する「自分なりの視座」を獲得することを主たる目的とした。高校時代に世界史・日本史を履修していない学生も多かったため、国際関係史の基本的な事項の解説を含め、歴史の流れを理解してもらえよう努めた。</p> <p>ただ内容的に就職や資格取得に直接かわるものではないため、事前学習や復習を促す動機づけに乏しかったようだ。就活を始め、彼女らが自分たちの将来を生きていくうえでもっと実用的な知識や姿勢を身に付ける講義内容にできなかった点が悔やまれる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>テストの平均点は71点、再試対象者は0人であり、本講義の目標である「国際関係論の基本的な知識を身に付ける」という目的はおおむね達成できた。ただ、授業中に習得した用語や概念を使用して自身の考えを披露してもらった記述形式の問題の平均正答率は3割弱と押しなべて低く、「世界情勢を眺め、論じる際に依拠する自分なりの視座を獲得してもらおう」という第2の目標に関しては達成できなかったと自己評価している。その原因としては、国際関係云々のまえに、ものを書く技法・作法がまだ十分に身に付いていないことが考えられる。実際に手を動かし、文書を書き、推敲し、添削をしてもらい、さらに修正するという機会を何とか設けられればと思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性
本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。

②DP、行動目標から見ての内容妥当性
学習到達度の学生からの評価でも概ね肯定的な評価を得ることができた。4年生の学生からは、「専門分野は違うが、本科目で学んだ知見を卒業論文で活用した」との声や、NGOで活躍する学生からも「自分たちの活動の意味を考え直すきっかけになった」との意見をもらうことができた。これらの点からもDP・行動目標の観点からも妥当であると考えられる。

③まとめ
以上から内容妥当性には問題がないと考えらえる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べて、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感否めない。次に機会があれば、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材のものを取り上げていこうと思う。

学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できたと評価できる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」33%であり、「関心のある内容」66%だった。昨年度とは異なる結果である。このことから、半数以上の学生が関心をもって授業に臨んでいたことがわかる。さらに、「単位数を確保する」という動機は「関心のある内容」について2番目に多く、55%を占めていた。ここからは、この科目から想像される内容に関心が持て、かつ単位数を確保するために比較的取り組みやすい科目であると意識していたといえる。それらの想定を活かし、今年度も授業では、高校まで学習した内容とつながりを持たせながら、知識を深めることとしていた。②毎回確認テストを行い、学生や復習したり予習したりできるような時間を設けた。③昨年度は、授業過程を振り返ってみたとき、個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間が取れなかったことを改善点とした。今回はシラバスを一部修正し、個々のFBを授業時間内にできるようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者はおらず、全員が標準的なレベルに達した。学生による到達度自己評価においても、平均すると9割の学生が、自身の目標を達成できたと考えている。学生による授業評価においては、知識理解の観点と、技術を身に付けることに関する自己評価に差がある。これは、学生が授業における評価項目を十分に理解していないことも原因としてあげられる。2023年度は2022年度の反省を活かし、ルーブリック評価を用い、その基準を授業内の早い段階で示すこととした。評価基準を示すことで、学生にとっても分かりやすくなったと思う。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP上の位置づけ…本科目は、資格取得に役立つ科目であることに加え、高校まで培ってきた知識をさらに深める科目である。様々な目的の学生がいるため動機付けに苦慮したが、CPの位置づけを意識し昨年度同様授業作りを行った。②DPからの位置づけ…多くは、自分なりの目標を達成したと答えている。さらに、「知識を確認、修正したり、新たに得た」と評価した学生が多く、「さらに学びを深めたいと意欲を持つことができた」学生は70%だった。その結果、学生も一定の成績を取得している。③まとめ…以上のことから、内容的妥当性は担保したと判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

内容毎にジャンルが違いすぎて予習復習が行い辛いとの自由記述があった。、今後は範囲やテーマ、調べることを指定して、予習復習を行いやすくなるよう工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間は取ることができた。グループワークでは、時折、何を議論しているか分からなくなってしまう学生もいたり、課題が後回しになってしまう学生もいた。毎回の授業はじめに、目標を具体的に示し、授業内で行うことを明確に提示しておく。さらに、授業後の課題を提示する際には、次の授業までの見通しを説明し、学生がさらに意欲的に取り組めるようにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「関心のある内容」50%、「単位数を確保する」が100%だった。このことから、昨年度Ⅰを履修していた学生が引き続きの内容を想定して、履修したことが伺える。このような学生の学習準備状況を踏まえたうえで、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」からの連続性を持たせるために、毎回基礎的な知識を確認しつつ、それを応用した「Ⅱ」の内容に入るようにしていた。コメントシートの提出方法に関しては、対面で提出し、その後フィードバックも行うことができた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者はおらず、出席不足による評定不能もいなかった。すなわち、全員が標準的なレベルに達した。しかしながら回答者が少なくこの結果だけで判断するのは困難である。学生による到達度自己評価においても、すべての項目で平均値4.0もしくは3.0であり、ここからは、自身の目標を達成できたとしていることが分かった。しかしながら、「情報利用」や「図書館利用」に関しては、50%の学生が利用しなかったと答えている。Web上で閲覧することができる文献サービスなども複数提示し、課題に含めることも考えられる。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPからの位置づけ…「I」に引き続く内容の「II」であるため、科目の連続性を大切に。「I」のシラバスで習得されたことを、授業初回に確認し、それらの知識を発展させながら、「II」に取り組んだ。さらに折にふれて、具体的な事例を示し、学問の考え方が日常生活と結びつくことを強調し、グループワークにより多様な考え方を引き出した。②DPからは、「様々な課題を検討することができた」「的確に判断する力を得た」項目の平均値が4.0とあり、昨年度より大幅に上昇した。③まとめ…以上の理由から内容的妥当性を担保していると判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として「特にする必要がなかったから」という意見があった。これについては、他の科目との関連性を見出し、科目の価値を位置付けるとともに、学生には自ら積極的に向かいたいような課題を工夫したい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。

昨年度よりも、到達度評価と授業の質評価の項目において向上している。これは、昨年度の課題をふまえて、学生に提示する課題を明確にしたこと、授業内での狙いを丁寧に学生説明できたからであろう。さらに、コメントシートからは、学生とのコミュニケーションをとることも重要であることが示唆された。来年度も対面の良さを活かしながら、細やかにフィードバックを行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
インターンシップ	2	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>インターンシップに関する基礎知識を得て、就職活動におけるインターンシップの重要な位置づけを理解し、自身にとっての就労の意味や自分自身への適性や感じ方考え方の傾向を認識できるように働きかけた。また、仲間と互いにエンパワーし成長する体験を通して、卒業後に社会に主体的に関わる意識を身につけられるように、意見を交換する時間を設けた。インターンシップに必要な書類を自身で作成できるよう実践的な課題を宿題として課した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業時に課したすべての課題が提出された。インターンシップに臨む際に求められる知識と考え方は身につけたといえる。また、事後報告書からは、実際のインターンシップには全員が積極的に参加し、社会人として必要なマナーが実践できたことや就労体験が今後のキャリアに活かせることがうかがえた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

インターンシップが、職業人としてのスキルや意識を身につけるだけでなく、現在の大学での学習や体験が、卒業後の社会人としての職業生活に活かせること、ビジネスキャリア形成へつながることを認識できたことが最後の報告書からうかがえた。インターンシップに安心して参加でき、現場で自信をもてたことが、今後の就職活動、ひいてはビジネスキャリアにも生かされると期待できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

意見をみんなの前で発表することを奨励し、チームで意見を交換しながら仕事をするという認識を高めた。経験豊かな外部講師から講義を受け、講師が子育て中の女性であったことためロールモデルとして、学生のライフキャリア形成を意識できる機会とした。インターンシップを大局的に自身の先々のキャリアを見据えた体験になるよう意識づけを行った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

安心して就労体験に臨めるよう、事前に、座学にて仕事の現場でのマナーや身だしなみ、敬語の使い方などを学習したことは効果があった。また、卒業後に社会に主体的に関わる意識を身につけられた。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	角谷 尚久

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は就職課との連携で行った。就職活動への準備喚起を主眼とした講義とした。業界の現状、仕事での経験、就職活動のアドバイスなどを含め、3年次のインターンシップにつながる内容とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、中央値が4.0-5.0であり、学生の目標達成はいづれも達成できていると思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP,CP,カリキュラムマップと照らし合わせた内容に問題はなく、妥当であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、平均値が3.8-4.6であり、当初の目標は達成できていると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

就職課の協力の下、ゲストスピーカーを招いての授業を多くできた。学生にとって、就職活動の意識を高めることとなった。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	高橋 和幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①英語学科において「簿記入門」という科目名に対して戸惑いを感じる者も少なくないのではないかと想定して、簿記を学ぶ意義やビジネスにおける役割を意識させたり、具体的に説明することに努め、さらにはより多くの問題演習の機会を設けた。受講動機を確認すると、「資格取得に必要である」が23.8%、「関心のある内容である」が57.1%ということからも、このような実施方法は適切であったと考えている。</p> <p>②シラバスに示した通りの小テストを実施したことで、学習のモチベーション向上につながったと考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価によると、10項目の各平均点が英語学科平均と比較して ±0.4の範囲に収まっている。ただし、(8)については、科目の性質上数値が低くなっていると考えている。またアンケートの自由記述の中の、「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」において、当方でGoogleクラスルームに追加的に用意した練習問題で復習するなど各自意欲的に取り組んだ様子が確認され、このようなことから、教育目標はおおむね達成されたと考えられる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP4-3「自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。」に照らしたとき、将来の進路において活躍するために自分の能力や知識を向上させる科目であると考えている。

②CPにおいて「キャリア形成科目」では、「国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいる。」とされており、本科目は適切に位置づけられている。

③まとめ

上記①②および学生の受講動機や到達度自己評価の回答から考えても、内容的妥当性を有していると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義初回に実施したアンケートによると、簿記学習経験者は若干名であったので、常に初学者向けに平易に具体的に講義を進めることを心掛けた。その際、企業活動や企業経営と具体的に関連付けることも意識した。また、問題演習が理解のための大きな要素となるので、より多くの問題演習の機会を提供したり、シラバスに基づき小テストを実施し、こまめにおさらいできるようにした。

自由記述にも、もともと数字が苦手だったが最終的には楽しくまなべた旨の記述もあったことから、良好に講義を進めることができたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

英語学科での簿記の講義であるが、本科目は担当2年目ということもあり、昨年度の経験やこれまでの経験をもとに入念に準備して臨んだ結果、アンケート結果からも概ね良好な講義を実施できたと考えている。

次年度も同様の講義方法を継続したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ボランティア演習	2	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>One aim of this course was to encourage students to think about international cooperation and volunteering through actual experience of engaging in a volunteer project. Another aim was to help them to further develop and strengthen various soft skills, such as planning, organization, leadership and teamwork skills, through participation in a team-based volunteer project. In this course we worked with one particular charity organization. The charity founders joined us several times during the course both in person and online, which was critical for making the course a success. Students first heard directly from one of the founders about the charity's aims, background, and about international cooperation in general. They then could decide themselves, from a number of options, about how they wanted to support this charity's work. They created their own groups, and with ongoing consultation with the charity founders, they planned, put into action, and evaluated their volunteer projects. Each group had different issues to deal with as the goals of their projects differed, however each group and each individual engaged proactively in their tasks in their own ways, and made efforts to successfully complete their projects, as well as achieve the course aims.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students taking the course performed at a high level. They overcame various difficulties throughout the semester by working as both individuals and as a team to achieve their set goals, and through this experience they were able to develop their soft skills to a certain extent. This was evident through observation of their group work during the semester, as well as through their final presentations and reflection reports where they presented their achievements and reflected on their work. That said, the students are still at a developmental stage, and there was still room for improvement regarding their planning, organization, leadership and teamwork skills.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This course predominately involved group work, with myself monitoring each group's progress during and outside of class. As each team was a unique dynamic of individuals with different personalities and skills, and engaged in completely different projects, their approaches and progress differed.

While I feel that they were able to manage the projects relatively well, the project management element could perhaps have been done more smoothly, and as project management is an example of a soft skill, this could be better incorporated into the course in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I felt that the students worked well to achieve the various course aims. However, I feel that I need to consider how to help them to organize their projects/group work in more efficient and effective ways. I am considering to incorporate this more into the assessment itself in order to encourage them to be more conscious of this element of the course. At the same time, I feel that I need to be careful not to overemphasize the activity element and to keep at the core the underlying issues of being conscious of the various inequalities in society and our positioning towards them.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童英語教育研究	3	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職関連教科であるが、単位取得のために登録する学生もいることから、教科としての専門性を扱いながら、質問しやすいよう心掛けた。また、各自の学習体験を想起しながらテーマについて考えることで、理解を深め視野を広げることにつながる点も伝えた。</p> <p>②Google Classroomにてフィードバックを提出することとして、各自の理解や関心に応じて教員ともコミュニケーションを図れるようにし、必ず返信コメントを記入することとした。</p> <p>③各テーマの授業に当たっては、前期の「児童英語教育入門」で学んだことをより具体的に体験できるようにした。教室実践の一助となるようClassroom Englishの練習やActivity Todayを設定して学習活動紹介をした。また授業で利用できる学習活動を自ら考えたり、教材となる歌や絵本を見つけたりする課題を設定した。その際、互いの学習成果を発表したり説明したりして、教室で学生同士が学び合える場を意識的に設定した。発表課題である「模擬授業」は全員が教師・生徒の立場を体験して互いの工夫を学べるようにした。</p> <p>④レポート課題やフィードバックの提出期限、模擬授業担当当日の欠席の扱い（やむを得ない事由による欠席を除く）を事前に明確にして、学生の評価に対する不安や疑念を除くようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①アンケートにおける到達度の自己評価の平均値は3.6と低いが、10項目中9項目において4または4.5であり、全体を通して「やや達成された」と考えている。授業における課題達成度の平均は84%であるが、16名中10名が86%以上（うち7名が90%以上）であった。レポート課題達成度の平均は、85%であるが、過半数が88%の達成度であった。フィードバックは授業振り返りと質問を含む個人レベルのコミュニケーションの場としても設定したが、うまく活用できていない学生が数名見られた。ただ全体の提出平均は90%であった。</p> <p>②授業終盤にはまとめとして模擬授業を行ったが、全員がよく工夫し、積極的にICTを活用して学習活動を紹介できていた。各授業後のグループでの検討会でも積極的に意見を述べ合い、クラスメートの学びを支えるとともに自らの学びを深める姿勢が見られた。模擬授業の平均達成度は82%で、5名は90%以上であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置付けからみた内容妥当性 本教科は教職関連教科であるが、「選択科目」であり、教職課程志望者は、16名中5名であった。授業においては、学生の関心意欲を高めるため、身近な問題や自身の学習体験を想起する場を設けながら、授業を進める工夫が求められる。一方、2017年度版小学校学習指導要領（外国語活動・外国語科）において、「英語の堪能な地域の人材の活用」が明記されていることから、教職志望でない本学科卒業生も英語教育に関わる可能性は極めて高い。その状況の中、学生は一定の成果を出していることから、内容的に妥当であったと考える。</p> <p>②DPから見ての妥当性 成績評価において、16名全員が合格し、秀（7名）、優（6名）、良（1名）、可（2名）であった。レポート課題をもとにしたグループでの説明・話し合いでは、積極的に参加し互いに学び合う姿勢が見られた。また、意見交換の報告もわかりやすく概要をまとめて伝えることができていた。 以上により、DPから見て妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価 5項目中4項目において、評価は「③まあまあそうだと思う」以上であり、平均値は4以上であった。ただ、「説明は理解しやすいものだったか」については、1名が「少しそうでないと思う」と回答していた。また、自由記述の中にも、「アクティビティの説明が分かりにくくて混乱した」とあった。レポート課題だけでなく、授業中の活動についても、学生の積極的な参加姿勢を生かすために、よりわかりやすい説明の仕方を工夫したい。</p> <p>②学習の量評価 授業中のワークシートを利用して記録し、予習・復習ともそれ程時間をかけていない学生が多かった。自由記述によると、授業内で内容を理解できたとの答えが複数あった。レポート課題を通して、関連する情報により一層触れる機会を持てるようにしたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①後期は、教職課程履修者が中心となるため、前期に比べて学生間の学び合い活動が実施しやすい状況となることが多い。この状況を生かして、学生が互いを尊重して、学びを深め合える機会を出来るだけ設定しその成果を感じることができた。今後も継続したい。</p> <p>②授業前の「10秒近況報告」は、3年生になって必須科目でクラスメートとともに学ぶ機会が少なくなっている時期にあって、交友関係の充実に寄与するものと考えている。今後も教室が学生にとって居心地の良い場所となるよう努めたい。</p> <p>③授業についての質問や意見、提案など、いつでも歓迎している。直接話したり、Google Classroomの通信欄を利用したりして積極的にコミュニケーションをとってほしい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Project-Based Learning (PBL) has become a popular focus for language learning and we incorporated this into the zemi work. Using this approach, students in this zemi worked on projects in English that had a specific goal. For this seminar, we continued with our SDG-related project work done in semester one at Yuikirara. Students returned there to harvest rice and vegetables, which we sold at the school festival. We also began a project with the former Yaskawa Residence in Tobata, and will continue this in 2024. This was an exceptional seminar group, and all students produced excellent work.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students in this seminar class worked extremely well together, and were able to collaborate successfully on our different projects. We collaborated together to formulate a new set of goals and objectives, and the students worked very well to achieve them. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Every student in this class worked beyond the requirements of the class and produced amazing results. As stated above, this group has basically no weaknesses, and have excelled in working towards all DP goals. All targets set by this class were very competently attained.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As I have no seminar class in the coming years due to upcoming retirement, I have nothing to comment on here.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As I have no seminar class in the coming years due to upcoming retirement, I have nothing to comment on here.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流やNGOとの協働等を学生自らが体験出来る機会を設けた。またインターネットを活用して、海外の学生との共同プロジェクトなども実施することができた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が毎回の課題に積極的に取り組み、授業での発表、レポート等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、すべての学生がすべての項目について、肯定的に回答し、中央値が5.0であることから、目標は達成できていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生がすべての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。毎回、何らかのトピックで議論をする機会があったので、互いの意見を尊重しながら議論を進めていく態度が徐々に身につき、多方面から物事を考えることができるようになってきている。

授業の中で図書館を利用することはできなかったが、折に触れてインターネットで情報を収集する方法等にも触れたので、多くの学生が授業で図書館やデータベースやインターネットを活用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施し、図書館、データベース、インターネット等での情報収集については昨年度より改善が見られるが、まだ十分とは言えないので、さらに改善していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」75.0%、「関心のある内容」75.0%、「単位数を確保する」25.0%で、その他の項目は0%であった。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③マナーやSPIの勉強時間を入れたり、4年次から就職活動に備えた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>常連の出席者は全員が毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。出席率に問題がある学生には個別に指導もしたが、単位を取れない学生もいた。学生の到達度自己評価によると去年は(1)4. (2)4.7(3)4.7(4)5.0(5)4.7(6)5.0(7)4.8(8)4.7(9)4.7(10)4.2であり、今年は、(1)4.5 (2)4.8(3)4.8(4)4.8(5)4.8(6)4.8(7)4.8(8)4.8(9)4.5(10)4.3であった。去年との大きな内容の変更点は、発表の時間に、SPIやマナーといった就活を意識した内容を入れたことである。しかしながら、アンケートの回収率も低く、去年との数値の比較でそれがどのように評価に影響したかは数値としては表れなかった。全員準備をきちんとし臨み、有用な意見を発表していた。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、全ての項目で4.8と高めの評価であった。しかし、教師としては学生の意見や質問をたくさん受け入れたいのでそのように促しているつもりであるが、(4)(5)で5.0とまらないのは残念である。自由記述欄には、「講義内容のわからない部分を調べることに、背景知識を得るために自分で調べることがあった」とあった。確かに近年、学生が準備する発表の資料の下調べの質が向上している。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。

達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持させることと、ゼミの授業の中で引き続き新聞やSPI、マナー講義の時間や、TOEICの勉強の時間（5分程度でできるもの）も引き続き継続していきたい。今年の反省点は、ゼミとして図書館に全員で行くセッションをしなかったことであり、図書館利用は(1)(2)とも②が0人であった。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The main aim of the course is to set the groundwork for next year's graduation thesis. By examining issues in greater details and preparing students with more detailed research activities and exercises, it was the intention of the course to help students get their minds prepared for the task of doing a graduation thesis.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The students were interested in the material and took on the challenges presented to them. As DP2 is of particular importance for this course as preparation for next year's graduation thesis, it was good to see their understanding of the material and subsequent improvement in their skills.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Within the curriculum map the course is well placed to take advantage of the various skills and knowledge the students have acquired in other courses. Bringing all this together and finding a way forward towards their graduation thesis for next year is the general aim of the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although the students were quite varied in their levels and motivations they worked surprisingly well together, which helped to make this course a success. The improvements in increased research opportunities that were added last year, and expanded on this year, allowed the students to work through a larger project before having to actually do it themselves, which was very enlightening for them and will hopefully lead to more success in the following course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Various classroom opportunities to develop stronger group dynamics, as well as work with their seniors, can be said to have helped make the course a success. It is hoped that they will be able to benefit from this in their final year and in completing their research for their graduation thesis.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Once again, this year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed. In semester 2, rather than work in a specific class period timeslot, we had an open attendance policy with students able to come and go during a whole afternoon I had available. This resulted in considerably more work for me, but it allowed for more student interaction, and consequently, much stronger sotsuron reports.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	As in other years, though distracted by job hunting, this class generally worked well towards achieving their goals. They definitely worked better when offered time flexibility.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For the most part, this class progressed well, though absences during the semester for job hunting and work experience caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed. For this reason, all the DP goals were effectively realised.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

From lessons learned in this and previous years, sotsuron writing will continue to be much more structured with specific deadlines for specific sections. This focus on sections of the report rather than the whole should enable the students to complete their reports in a much more timely manner. With the sotsuron deadline coming in December this year, management of time might be less of an issue.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

With a seminar class focusing on sotsuron and job hunting as priorities, it is what it is, so current systems will be continued.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The overall aim of this year-long course, which I taught for the first time, was for students to plan and carry out a research project, and to share their findings in the form of a graduation thesis, as well as a poster presentation. Students learned the fundamentals of how to conduct a research project at the end of the previous semester and started to think about potential research topics and conduct their literature reviews over the spring vacation. In this course students were required to report on or present their findings each week to the class, to enable students to learn from each other, including the feedback that other students receive. In the second semester, when students started to write up their research results, instruction was gradually shifted to a one-on-one level to allow for personalized feedback.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Overall, the majority of students achieved the aims of the course, in terms of the final product (their graduation theses and poster presentations) and also the process, measured through the content and quality of their weekly progress reports, and changes seen in their ability to understand how to conduct research and how to think critically seen through this. Students whose final products were weak, were generally those who did not engage with the research process in a constructive way.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Student feedback on the course suggests that it was helpful for them. Overall, I also feel that the students managed to develop their research skills, analytical skills, writing skills, time management skills, communication skills, as well as their knowledge and understanding of their research topics bit by bit throughout the semester. That said, some of them had difficulties with choosing appropriate topics, creating appropriate research questions, finding appropriate reading materials for their literature reviews, choosing appropriate research methodologies, etc. This is to be expected given that it is their first real attempt to engage with original research, and these issues were dealt with during the course as necessary. However, in hindsight it may have been better to have spent a bit more time working on these issues at the beginning of the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Although it was my first time to teach this course, overall I think it went smoothly. All students were able to complete their research projects and to present their results in the form of both a written thesis and a poster presentation, although the standard was lower for those students whose level of engagement with the class was low. However, the great majority of students did extremely well, and managed to develop their skills over the semester. I would like to continue to think about and experiment with more effective ways of supporting students to conduct their research in the upcoming academic year.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。</p> <p>② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。</p> <p>③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、到達度自己評価については、すべての学生がすべての項目について肯定的に回答をしている。学生の卒業論文や課題は基準を満たしたものであった。よって教育目標は概ね達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆を当初の計画通りに進めることができなかつたり、論文の構成に苦労する学生もいた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が標準レベルに達していることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全ての学生が全ての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。活発な議論になりづらい場面もあったが、それぞれの学生が少しでも関わられるよう発問を工夫したりした。卒業論文の執筆がなかなか進まない学生には、スモールステップを設けて、各段階に達するごとに面談をし、問題を明確にしたり次にやることを話し合ったりしながら進めていき、期限内に余裕を持って仕上げることができた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

卒業論文については、個別での指導をかなり実施したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的だったと思う。また、卒業論文の執筆については、学生によっては小さなゴールを設定しながら個別指導も併用して進めた方が、効果的であることがわかったので、今後も場合に応じてそのようにしたいと思う。昨年に続き、卒業論文の個別指導については、Meetも併用したため、細やかな指導ができたと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」20%、「関心のある内容である」20%「単位数を確保する」20%であった。ちなみに全員第一希望でこのゼミを選択したメンバーであった。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞や社会人マナーを分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>出席常連メンバーのほぼ全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。出席率が悪く、卒論がなかなか進まない学生も1名いたが、個別指導を行いなんとか単位は取れた。学生の到達度自己評価によると(1)5.0(2)4.8(3)4.4(4)4.2(5)4.0(6)4.2(7)3.8(8)4.4(9)4.4(10)4.4であった。去年は、(1)から(6)が全て4.8で、(7)4.7,(8)4.8(9)4.0(10)4.0であった。最後まで卒論がなかなか進まなかった学生もいたが、なんとか終わることができた達成感が評価され、(1)5.0という高評価なのかもしれない。また就職報告会では、発表者の一定数の学生がこのゼミから発表者として選択され、見事な報告を行ってくれた。そうした発表力の基礎がゼミでのディスカッションの効果として体現できたことは喜ばしいことである。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の項目においては、すべての項目において、学生のほぼ全員が「かなりそうだと思う」を選択している。図書館の利用は、5名中②と回答したのは(1)4名(2)4名(3)5名であった。図書で調べるといよりは、ネットなどの最新情報に所以する研究内容に偏ることなく、今年も図書館の本も使用するようにと誘導したのは良かった。授業評価は、(1)4.6(2)4.6(3)4.8(4)4.8(5)4.8であり、概ね高かった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎回活発な議論を交わし、お互いを思いやる大変良い雰囲気のゼミで、就職活動発表会においては、たくさんのゼミ生が学年全体の代表として発表するなど、良い就職先を確保したことも、日頃の積み重ねであったと評価したい。アンケートの自由記述欄の「7. 担当教員への意見」には、コメントがなかった。慌ただしい中、アンケートをとったことを反省する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to expose students to English outside of regular classroom situations. Bringing real world English to the students with lectures by people with various life experiences, as well as providing English communication opportunities with other year groups. They are also expected to do self directed learning with online materials. It is hoped that the students will be challenged to work with English in new ways that will challenge them yet be enjoyable.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The various activities were not always appropriate for all the students as there is a significant difference in language ability among the students. However, effort and participation in a variety of activities was rewarded and correlates to the scores that students achieved in the course. Almost all students received scores of S or A.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is well situated within the curriculum as it tries to complement what students are learning in other classes and find relevance to their field of study.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course is partially student generated and centered its success is greatly dependent on the students themselves.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

In general the course was successful in achieving its goal of providing interesting and alternate activities related to the use of English in non-traditional formats. Other aspects of the course involve a lot of planning on the part of the teacher and finding content that is appropriate and interesting can be challenging.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension II	2	通年	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to expose students to English outside of regular classroom situations. Bringing real world English to the students with lectures by people with various life experiences, as well as providing English communication opportunities with other year groups. They are also expected to do self directed learning with online materials. It is hoped that the students will be challenged to work with English in new ways that will challenge them yet be enjoyable.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The various activities were not always appropriate for all the students as there is a significant difference in language ability among the students. However, effort and participation in a variety of activities was rewarded and correlates to the scores that students achieved in the course. Two thirds of the students received scores of S or A.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is well situated within the curriculum as it tries to complement what students are learning in other classes and find relevance to their field of study.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course is partially student generated and centered its success is greatly dependent on the students themselves.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

In general the course was successful in achieving its goal of providing interesting and alternate activities related to the use of English in non-traditional formats. Other aspects of the course involve a lot of planning on the part of the teacher and finding content that is appropriate and interesting can be challenging.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension III	3	通年	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to expose students to English outside of regular classroom situations. Bringing real world English to the students with lectures by people with various life experiences, as well as providing English communication opportunities with other year groups. They are also expected to do self directed learning with online materials. It is hoped that the students will be challenged to work with English in new ways that will challenge them yet be enjoyable.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The various activities were not always appropriate for all the students as there is a significant difference in language ability among the students. However, effort and participation in a variety of activities was rewarded and correlates to the scores that students achieved in the course. 75% of the students received scores of S or A.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is well situated within the curriculum as it tries to complement what students are learning in other classes and find relevance to their field of study.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course is partially student generated and centered its success is greatly dependent on the students themselves.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

In general the course was successful in achieving its goal of providing interesting and alternate activities related to the use of English in non-traditional formats. Other aspects of the course involve a lot of planning on the part of the teacher and finding content that is appropriate and interesting can be challenging.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension IV	4	通年	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to expose students to English outside of regular classroom situations. Bringing real world English to the students with lectures by people with various life experiences, as well as providing English communication opportunities with other year groups. They are also expected to do self directed learning with online materials. It is hoped that the students will be challenged to work with English in new ways that will challenge them yet be enjoyable.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The various activities were not always appropriate for all the students as there is a significant difference in language ability among the students. However, effort and participation in a variety of activities was rewarded and correlates to the scores that students achieved in the course. Two thirds of the students received scores of S or A.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is well situated within the curriculum as it tries to complement what students are learning in other classes and find relevance to their field of study. As the course is partially student generated and centered its success is greatly dependent on the students themselves.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course is partially student generated and centered its success is greatly dependent on the students themselves.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

In general the course was successful in achieving its goal of providing interesting and alternate activities related to the use of English in non-traditional formats. Other aspects of the course involve a lot of planning on the part of the teacher and finding content that is appropriate and interesting can be challenging.

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。</p> <p>③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①評価は、授業への参加具合、小テスト、レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上0名、80点以上90点未満1名、70点以上80点未満4名、60点以上70点未満2名、60点未満2名であった。他学科に比べて見劣りがすると言わざるを得ない。</p> <p>③今回から、筆記試験（小テスト）を導入したために、バランスよく評価できたのではないかと考える。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①現在の日本の学校教育において、急速にその内容と方法に変革が迫っていると感じている。様々な答申や通知などを受けて、急ぎ対応せざるを得ないものもある。常に新しい情報に接することが重要であるとする。

②座学での学びには限界があり、アクティブラーニングを取り入れて主体的な学びとなるように構成をさらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○全学科：平均点80.4点、秀5人 (8.6%)、優32人 (55.2%)、良13人 (22.4%)、可7人 (12.1%)、不可1人 (1.7%)。SD8.30。</p> <p>○英語学科 (昨年度)：平均点82.2点、秀0人 (0.0%)、優6人 (66.7%)、良3人 (33.3%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD5.33。</p> <p>○英語学科 (本年度)：平均点76.4点、秀0人 (0.0%)、優6人 (60.6%)、良1人 (10.0%) 可2人 (20.0%)、不可1人 (10.0%)。SD9.76。</p> <p>○昨年度と比較し、平均点で6ポイント低下した。全学科平均点も同様に低下しており、出題難易度を上げた影響も考えられる。平均点はおおよそ満足できる。不可がいた点と秀がない点に課題がある。</p>					
*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度の改善目標に挙げたように、試験問題は昨年度と比較して記述式問題および思考力を求める選択式問題を増やした。

○授業内容は質・量ともに昨年と同程度であった。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。(3)レジュメのデザインを読みやすいものに修正した。

○到達度が昨年度より低下したのは、試験問題の難易度などが影響したと予想される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○本年度は平均点を75点程度に想定した試験問題を作成しており、おおよそそのような結果となった。知識の定着についてはある程度満足できるが、思考を求める問題(図の読み取り問題など)への対応が課題となる。

○不可の学生が出たことについては基本的な動機付けに課題があると考え、その改善を目指して指導したい。

○試験問題については本年度と同程度の難易度、測定基準を実施したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。</p> <p>②全体を、教育課程の歴史の変遷による基礎的理解を深める部分と、現在の学校教育における教育課程の実践の部分の二つに大きく分けて授業を組み立てた。</p> <p>③特に後半は、この30年ぐらいの教育課程の変化を踏まえて、学習者の主体的な学習を構築するという観点から、さまざまな答申や文書を検証し、また学生たちが自律的に教育課程を考えられるような実践を行った。</p> <p>④学生たちの意見交換を大事にするためにグループワークを積極的に取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、2度の小テストとレポートの合計点で行った。基礎的な知識を定着させる意味もあり、筆記試験を実施した。</p> <p>②成績は、90点以上が1名、80点以上90点未満が2名、70点以上80点未満が2名、60点以上70点未満が6名であった。全体として低調な結果となった。</p> <p>③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題について調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的真面目に取り組んだと思われる。しかし、こうして獲得した知識を具体的な実践に落とし込むことはまだまだ不十分である。</p> <p>④グループワークなどのアクティブラーニングを多く取り入れたが、教職課程も2年目となることもあり、学生も慣れてきたように思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップに沿っており、内容的な妥当性については問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的ではない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意したためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意したためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名で、ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、1名の学生が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目について「少しそうではないと思う」と答えている以外は、全員が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は達成されたと考える。☑</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、それぞれ1名の学生が「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」に対して「少しそうではないと思う」と回答していたが、それ以外はすべての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、授業の進め方については概ね適切であったと考える。学習項目が多いため、皆で意見を交換しながら考えを深める時間を多くは取れなかったが、少しは取り入れるようにしたけども、不十分だったと思われる。考えたり話し合ったりする時間をもう少し取れるようにするため、予習や復習のやり方を工夫して授業中の説明の時間を少なくできるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績は、概ね良好であり、レポートや試験の答案の内容からも、全員が標準以上の理解に達していると考えられる。英語教科教育法の基礎的な知識を身につけることができていると思うので、「英語教科教育法II」「英語教科教育法III」「英語教科教育法IV」「英語教科教育法V」の中で、より実践的な知識や技能を身につけていくことができるよう、教職課程の科目全般でサポートしていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語の教員免許取得のために必修の科目である。模擬授業を中心とした授業構成であり、4年生で教育実習に行く際に直結する科目であるため、できるだけ、学生たちが実践的に理解できるように授業を組み立てることを工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>この授業では、模擬授業をすることで授業を作るために必要な知識を応用し、目標を達成するための活動を展開する方法を自分で考え、実践することを行った。また、他の模擬授業に対して建設的なコメントをするための授業を見る視点を養わせることも同時に学ばせた。アンケートの回答者が1名しかいないため、受講者からの自己評価に関しては客観的な評価はできないが、授業者として、これらの活動を通して、受講者の受講を受ける態度 (DP4)、及び、指導技能に関する学びにおいて目標を達成したと評価できる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

この科目は英語教員免許を取得するための英語教科教育法を学ぶ科目であり、教育実習に向けての準備の位置づけとなる。そのため、DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容は妥当であると言える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本学に赴任して、初めて担当した教育法の授業であったため、前年度に学生たちが受講している英語科教育法Ⅱとの内容の連続性などに課題が残った可能性がある。受講している学生たちが意欲が高く、主体的な学びができる学生たちであったため助けられた。次年度は、今年度の経験を活かし、基礎的なところから着実にかためていくように授業を組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

アンケートに回答している学生の達成状況を見ると目標達成はできている。また、授業者から見ても目標達成はできていると評価している。しかしながら、次年度は、この科目の前後に置かれている授業との連続性や系統性などをさらに意識して、授業内容を組み立てていくなどの工夫が求められる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語の教員免許取得のために必修の科目である。4年生で教育実習に行く際に直結する科目であることと、英語教科教育法Ⅲで模擬授業を組み立て実践していることで、その裏にある理論を理解しながら、授業を組み立てることができるように工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講者の受講を受ける態度 (DP4)、及び、教育の理論を学び模擬授業の実践に活かすという目標を達成したと評価できる。アンケートの回答者が1名しかいないため、全員がどのように評価するか定かではないが、ディスカッション形式で教育に関する理論をかみ砕きながら対話的に学び合いができたという点から達成できたと評価できると考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

この科目は英語教員免許を取得するための英語教科教育法を学ぶ科目であり、教育実習に向けての準備の位置づけとなる。そのため、DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容は妥当であると言える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本学に赴任して、初めて担当した教育法の授業であったため、前年度に学生たちが受講している英語科教育法Ⅱとの内容の連続性などに課題が残った可能性がある。次年度は、前後の科目との系統性をより深く考え、学生たちが学びやすいように工夫していく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

アンケートに回答している学生の達成状況を見ると目標達成はできている。また、授業者から見てもある程度の目標達成はできていると評価している。模擬授業を中心とする英語教科教育法Ⅲと同時期に開講する科目であるため、科目間の内容の必然性や効果をさらに増すことができるよう工夫していきたい。